

「ふくしまグリーン復興構想(第2期)」素案に対する県民意見公募（パブリックコメント）意見と県の考え方

No	ページ	行	意見の内容・理由	県の考え方
1	22	27	<p>アンケートの中にベンチなどの整備とあるが、トレイルや探勝路は歩くだけでなく景観をゆっくり楽しむ（五感を使って）ことを目的に訪れる方も多し。寝転がって木々のからの空を見たい、癒されたいなど その仕掛けが必要なのではないのでしょうか。</p> <p>(理由) 自然の保全だけではなく、利用を考えると、自然からの癒しを感じることを、癒しの効果を実感してもらおう。そのあたりのことがあまり盛り込まれていない気がします。</p>	<p>御意見ありがとうございます。 28 ページに記載のとおり、来訪者へ優れた自然の中で心と体を満たす癒やしのひとときと上質な体験を提供できるよう、地域と一体となって自然公園の魅力・ストーリーの磨き上げに取り組んでまいります。</p>
2	23		<p>何事も必要がある。にとどまらず、 必要なものを精査して支援する体制をとる。</p> <p>(理由) 必要があるのは十分わかることで、実施していくにはどのような方法があるのか、支援できるものには支援していけるのかよくわからない。</p>	<p>御意見ありがとうございます。 23 ページの記載は課題の整理ですので、そのような記載としています。</p>
3	26	18～21	<p>県内では、まだまだ自然共生サイトの認知度は低く、「民間」への周知は非常に重要である。しかし、地方自治体も 30by30 アライアンス及び自然共生サイトの申請が可能であることから、率先して申請を検討すべきと考える。 P. 25、14～15 行に「構想の推進に当たっては～」の文言が入っているが、この項の自然共生サイトに関しては、地方自治体の役割を具体的に明記すべきと考える。「地域生物多様性増進活動」においても連携地方自治体の役割が非常に需要であり、構想の中に明文化することにより共生サイトの PR 効果や認定数の増加が期待できる。</p>	<p>御意見ありがとうございます。 民間企業等への周知・支援だけでなく、県庁内関係各部署や市町村への積極的な情報共有等により自然共生サイトへの意識を高め、認定数の増加に向けた取組を推進してまいります。</p>

		<p>(理由)</p> <p>自然共生サイト申請に関しては、国レベルでも丁寧に指導していただけると聞いている。しかし、県民にとって一番身近な市町村の自然共生サイトへの認知度はかなり低いと言わざるを得ない。県市町村の所有するポテンシャルの高い公有地が多く存在しているのに、まず、足元を見直すべきではないだろうか。</p> <p>例えば仙台市では「仙台ふるさとの杜再生プロジェクト」「仙台市水道局青下水源涵養林」の申請者となっている。市町村所有の自然系の施設では、すでに共生サイト申請要件である「維持」がされ、「管理計画」「調査活動」もなされている場合が多い。しかしながら、担当部署では、自然共生サイトの存在すら知らない例があった。</p> <p>また、この構想は県自然保護課のみでなく、観光、環境保全型農業、棚田等農林関係、浜通りの復興記念工事等土木関係も重要であり、県、市町村内部で広く共有すべきである。特に、浜通りでは震災後に希少種が多く確認され、浪江町等の復興記念公園では、震災後の生物多様性保全のための調査がおこなわれており、復興のシンボルとして自然共生サイトの申請も検討可能である。</p> <p>今後、民間からの「連携増進活動計画」の相談も考えられる。各市町村で該当場所の検討等職員の理解を図るため研修等が重要であり、構想に明文化することにより職員の意識向上が望まれる。</p>	
4	29	<p>利用拠点の充実の中に 福島の山：安達太良・吾妻山・磐梯山は活火山であり、シェルターについては触れてありません。 充実の中に検討事項としてあると良い。</p> <p>(理由)</p> <p>特に吾妻山周辺は駐車場もあり、多くの方が来るところです。 ビジターセンターがシェルターの役目を果たせるのか、しっかりしたシェルターの造成があつて、安全をうたえるのではないかと思います。</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>現在、突発的な噴火が発生した際に登山者や観光客の安全を確保するため、県では吾妻山に火山シェルターを設置する準備を進めています。</p>

5	29	1～5	<p>ラムサール条約湿地となった猪苗代湖には、そもそも拠点となるビジターセンターがない。水鳥やアサザを観察する施設もない。早急に自然系の専門家が常駐するビジターセンターを整備し、情報発信に努めるべきであり、拠点となる施設の整備を構想に明記すべきと考える。</p> <p>(理由)</p> <p>猪苗代湖南岸の整備計画が不明であるが、拠点施設がないことは、p. 23、5～39行にある課題すべてに関連する問題であり、ラムサール条約湿地は、世界的な認定であり、今後は外国人対応も重要となる。</p> <p>また、P. 26、37～38、p. 27、13～17行にある環境学習やエコツアーリズムに関連しても、ボランティアやNPOに任せきりにするのではなく、自然系、生物多様性全般に関して広い知識を有する専門の人材を県で確保し、常駐させるべきである。単なる観光施設ではなく、湿地生態系の調査研究の拠点となるような、福島県が世界に誇れる、質の高い施設とすることが望まれる。</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>猪苗代湖につきましては、裏磐梯ビジターセンターや猪苗代水環境センターの活用だけでなく、アクアマリンいなわしろカワセミ水族館等の周辺施設と連携しながら、引き続き情報発信や環境学習に取り組んでまいります。</p> <p>また、環境学習の場として、猪苗代湖の水環境や動植物について理解を深めてもらう「水と親しむ場」の創出に向けた取組を進めてまいります。</p>
---	----	-----	---	--